

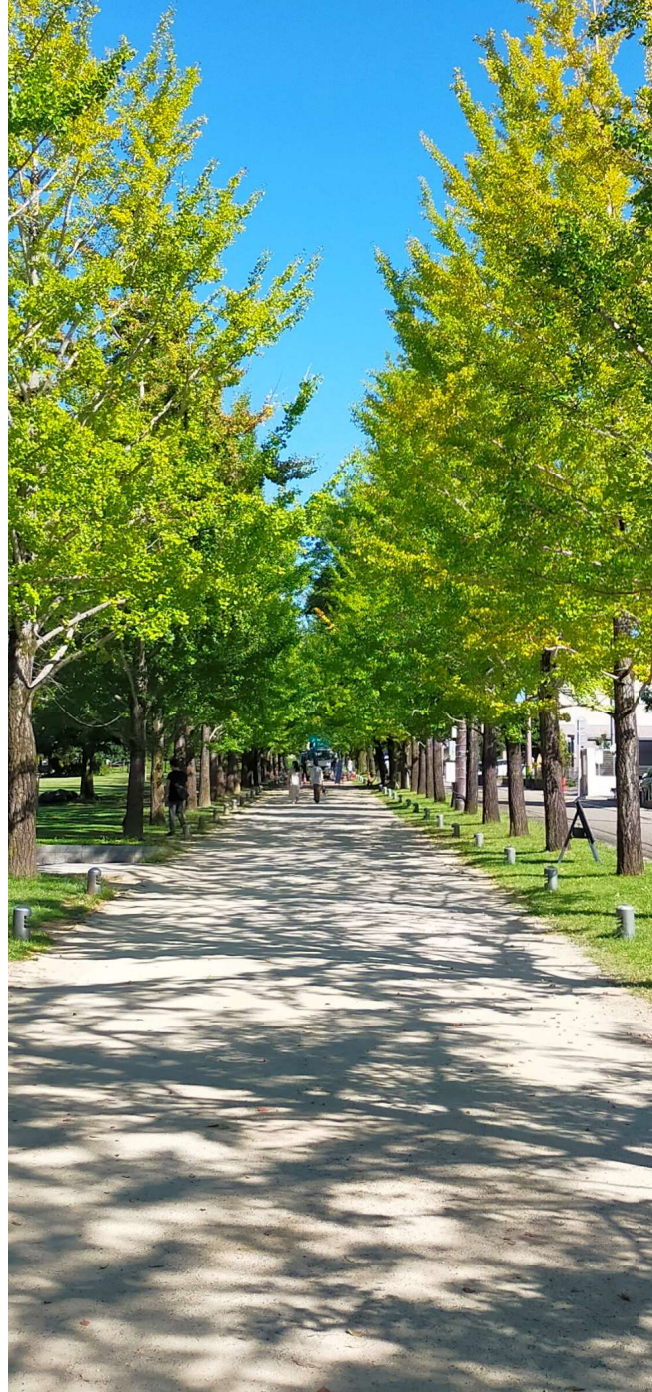
特集 多様な価値を創造するコモンズ

かつての日本は、国民的漫画のドラえもんで出てくる空き地の光景が随所で見られた。子どもが空き地で遊び、大人が路地で将棋を指したり井戸端会議をするなど、空き地や道路などでコミュニティ活動が普通に行われていた。しかし、都市化が進む中で、民間の土地は民間で土地活用し、道路、公園、河川などの管理は行政でと区画の線引きや管理区分が明確になり、いつの間にか道路、公園、河川などは「お役所が管理するもの」という意識が広まる一方、地域コミュニティは希薄化していった。

21世紀になり人口減少、経済成長の停滞、厳しい地方財政が続く中、地域コミュニティや人と人との関係づくりの必要性が再認識されるようになり、まちづくりの分野では、地域の良好な環境や価値を維持・向上させるため住民や地権者などが主体的に取り組む「エリアマネジメント」や、民間側のオープンスペースと行政が管理する道路（歩道を含む）や都市公園、河川などを一体的に捉えた「官民連携まちづくり」が各地で行われるようになってきている。

最近では、オープンスペースや公共空間といったハードだけでなく、図書館で扱う本、あるいはDX（デジタルトランスフォーメーション）に代表される情報などソフトも含め、様々な共有財産を上手く活用することで新たな価値を見出し人々の交流を創出する事例が見られるようになってきている。

そこで今回は、古くて新しい「コモンズ（共有地・入会地）」という概念に着目し、特集テーマを「多様な価値を創造するコモンズ」とした。次ページより、コモンズの考え方や、その対象となる情報、コミュニティ空間、公園、本、水辺などにおける取り組みを紹介する。



特集

- 1：コモンズとシェアリング ————— p2
- 2：柳ヶ瀬地区におけるコモンズ形成のために
～（仮称）Gテラスの挑戦～ — p3
- 3：名駅南から地域の公園のあり方を考える ——— p4
- 4：本×まちづくり ————— p5
～知る、つながる、気軽に交流できるまちづくりの新しいカタチ～
- 5：名古屋市内の水辺・公園 ————— p6
～コロナ禍で身近なまちを見直す～

SPACIA Reports

- ・愛知登文会の取り組みを振り返る ————— p7
- ・勝川駅周辺地区のまちづくり
新たなステージへ ————— p8
- ・3D都市モデル「PLATEAU」
～まちづくりのDX～ ————— p9
- ・東京都心部の水辺空間をたずねて ————— p10
- ・読書のススメ カミュ「ペスト」 ————— p11
- ・視覚障がい者の交通機関利用の現状と課題 — p12